

高梁川流域の ものづくり紹介

倉敷で仕事展
45社・団体出展

高梁川流域のものづくり企業が集まり、商品や技術力を発信する「龍の仕事展」が、倉敷市本町の倉敷アイビースクエアで開かれている。ジーンズなどの工業製品から農産品まで、地場産業の豊かさを示す逸品がそろっている。24日まで。

倉敷、総社、高梁、新見、笠岡、井原市の45社・団体が出展。倉敷市児島地区のデニム生地や豊縁を使った雑貨から同市真備地区の竹製品、高梁市の紅茶、総社市のみそ、新見市の包丁などまで、多様な加工品が並ぶ。

岡山市中区山崎の公務員谷本靖子さん(52)は「クオリティーの高いものばかり。作り手の思いが伝わる品は見ていて楽しい」と会場を巡っていた。

同展は高梁川を龍に見立て、備中地域の商工会議所や商工会などでつくる実行委



高梁川流域企業の多彩な製品が並ぶ会場

が毎年開催しており、8回目。県内の大学・短大生をインターンシップとして受け入れており、今回は38人が担当ブースで商品の紹介などを行っている。午前10時～午後5時。入場無料。(仁井名小百合)

山陽新聞社提供

「龍の仕事展」のインターンシップは、副専攻「岡山創生学」の「デザインプロジェクト演習」の選択プロジェクトの一つです。デザイン学部の学生7名が参加しました。

(参考) 副専攻「岡山創生学」

学士の学位を取得するために学部、学科で設定された主専攻のカリキュラムとは別に、社会に対する視野を広げ、柔軟な発想力や応用性を養うことを目的に設定された副専攻のプログラムです。主体的に興味関心のある分野について、地域で学際的、横断的に学びます。

課題発見と解決への動機付けに始まり、課題解決に向けた実践的な取組、そして学部教育への連携へと、年次による段階的なカリキュラムを編成しています。

定められた科目を履修して、単位を取得し、修了が認定されると「地域創生推進士」の称号が授与されます。社会の中で地域が果たす役割を考え、地域のニーズや課題を発見し、その課題に向き合い、解決できる知識や技術を身につけ、社会で活躍することが期待されます。

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」が行う「地域で学び、地域で未来を拓く“生き生きおかやま”人材育成事業」の一環として行われます。

COC+ ホームページ

<http://www.cocplus.oka-pu.ac.jp/index.html>